
第5章

重点プラン及び市民プロジェクト



第5章 重点プラン及び市民プロジェクト

1 重点プラン

環境目標を達成するための施策は前章で示したとおりですが、限られた財源を有効に活用するためにも、その重要性や市民の関心などを勘案し、総合的に取り組むべき重点テーマを取り上げ、テーマに沿って複数の事業を効果的に組み合わせることで、施策を効果的に進めていく必要があります。

このため、市が実施主体となり、当面総合的に取り組むべきテーマを「重点プラン」として設定します。

【重点プラン】

1 再生可能エネルギー活用プラン

2 森林再生プラン

3 里山再生プラン

4 農のある暮らしプラン

5 清流維持・再生プラン

1 再生可能エネルギー活用プラン

私たちは日常生活において、環境へ大きな負荷を与えています。その中でも地球温暖化*問題は国際的な課題であり、日本においては2050年までに温室効果ガス*排出量を現状から80%削減する長期目標を掲げています。

地球規模で深刻な問題となっている温暖化の対策を進めるためには、国や県による広域的な取組だけではなく、市町村など地域から温室効果ガスの排出量の削減を推進する取組が必要です。

こうした中、平成23年3月11日に東日本大震災が発生し、原子力発電所の事故の影響により、電力不足に伴うエネルギー政策の見直しが求められています。今後は、従来の化石燃料を主とするエネルギー政策から、温室効果ガスをほとんど出さない再生可能エネルギー*の導入を検討する必要があります。

このため、本市においても、再生可能エネルギーに関する情報の収集や研究会を設置し、市民・事業者・市が一体となって再生可能エネルギーの導入に向け検討を行うことが必要です。

また、住宅用太陽光発電システム設置補助事業を継続するとともに、市民共同太陽光発電事業や本市の豊かな水資源を生かした小水力発電*などについて研究を行います。

【事業内容】

- ①再生可能エネルギーに関する情報収集や研究会の設置
- ②住宅における太陽光発電システム設置の促進
- ③公共施設における太陽光発電システム設置の推進
- ④小水力発電の調査・研究
- ⑤バイオマス*エネルギーの利用の研究
- ⑥浄化センターにおける消化ガス発電の研究



2 森林再生プラン

豊かな森林に恵まれた本市では、古くから人は森林から多くの恩恵を受け、森林を大切な資源として無駄なく活用してきました。こうした人と森林との関わりが、森林を適切に維持するための役割を果たしてきました。

しかし、近年は、手入れが行われていない暗い森林が増え、森林が荒れてきています。太陽の光の入らない暗い森林では、草などが生えなくなり、土砂の流出や保水力の低下を招いています。

森林は木材を生産するだけでなく、水源のかん養や土砂流出防止、二酸化炭素吸収、動植物の生息・生育場所などの大切な役割を有しています。さらに近年では、登山や森林浴などによりストレスを緩和し、やすらぎを与える等の健康増進の役割を果たす場としての活用も求められています。

いま一度、人と森林との関わりを取り戻し、こうした豊かな森林の機能を発揮させるためには、市民の森林、林業に対する理解の醸成に努めるとともに、森林整備を進め、森林資源を有効活用するための施策を検討していく必要があります。

また、森林の荒廃や生長による景観や日照等の環境的な問題が起きていることから、森林所有者や関係者と協力し対策を検討する必要があります。

【事業内容】

- ①森林の循環再生のための西川材の利用拡大
- ②公共施設等における西川材利用の推進
- ③間伐・枝打ちなどの森林整備
- ④市有林におけるカーボンオフセット*の研究
- ⑤山間地域の日照改善のための研究
- ⑥針葉樹や広葉樹の特性を生かした森づくりの研究



整備された森林

3 里山再生プラン

かつて、里山は人の暮らしと密接に関わり、人の暮らしに欠くことができなかった薪や腐葉土などを得る目的で維持管理されてきました。伐採や除伐、下刈りなど人の手が入ることにより、落葉広葉樹が主体となり、多様な動植物が生息・生育し、生物多様性*に富んだ空間となっていました。

ところが、時代の移り変わりとともに人の手が入らなくなったため、樹木は太く育ち、低木が茂って藪となり、ヨシや雑草が生い茂って鬱そうとした状態となるなど、里山の荒廃が進んでいます。

里山は、都市化する生活の中で、身近な自然とのふれあいの場であり、憩いの場です。また、ハイキングなどのレクリエーションの場としての活用も期待されています。

そこで、このような動植物とふれあえる親しみのある里山を守り育むため、生活と身近な自然とのつながりを取り戻し、生態系*に配慮した里山を再生する取組が求められています。

【事業内容】

- ①飯能市環境保全条例に基づいた景観緑地の指定
- ②動植物の生息・生育状況調査の実施
- ③生物多様性に関する情報の発信
- ④森のようちえん事業の推進
- ⑤市民参加による里山再生の取組の推進
- ⑥ボランティア活動による緑の管理の支援



天覧入り谷津田

4 農のある暮らしプラン

農地は、人々が身近に活用しながら、長い年月をかけてつくり上げてきた貴重な財産であり、また、多様な生物の生息・生育の場としての自然環境です。

しかし、近年は農業従事者の減少や高齢化、後継者不足等で耕作放棄地が増加傾向にあり、また、有害鳥獣*による農作物被害が多く、農家の耕作意欲を奪う原因になっています。農地がいったん耕作放棄地の状態になると、農業生産力の低下、病害虫の発生、有害鳥獣の営巣などを招き、農地としての機能を大きく失ってしまうおそれがあります。

一方で、食の安全性への関心が高まり、退職後に土いじりを楽しんだり、野菜を自家栽培したり、農とふれあう暮らしへの志向が高まっています。自らの手で作物を育て、収穫し、食べるという「農のある暮らし」を身近に感じることは、食や農業に対する理解をより一層深めることとなります。

また、地元で採れた農産物を買求めたり、それらを生かした料理を味わったりすることで、地域の農業を応援することにつながり、より良い生活環境をつくることができます。

そこで、耕作放棄地の活用として、農業者以外の方が農業を体験できる場、また生産者と消費者が農作物生産という共通の話題を通じて交流し、相互理解を深める場として、土いじりの楽しみや野菜や花の育成のきっかけを広く市民に提供していくことが必要となります。

【事業内容】

- ①市民農園など、市民と連携した農地利用の推進
- ②市民が利用しやすい耕作放棄地活用システムづくりの研究
- ③有機農法や低農薬農法など、環境を重視した農業の奨励
- ④地場産農産物の地域内消費の促進
- ⑤農地などにおける鳥獣害対策の実施



田園風景

5 清流維持・再生プラン

本市の河川は、豊かな水の流れと源流から中流域までの変化に富んだ景観を有しており、多様な生物の生息・生育の場となっています。また、流域の人々にうるおいと安らぎを与え、川辺は子どもたちの遊び場となり、釣りの楽しみの場にもなってきました。

しかし、近年、上流域の山林の荒廃やコンクリート護岸工事、局地的な集中豪雨、また、生活スタイルの変化による生活排水の増大など、河川を取り巻く状況は変化してきました。

その結果、水質の悪化、水量の減少、河原にヨシが増殖するなど、水辺空間の環境は悪化し、便利になる暮らしの中で市民の川に対する意識が薄れ、水辺に親しむ機会も少なくなってきました。

そこで、水循環*の重要性を啓発し、水質の改善に取り組むとともに、散歩や川遊びなど、市民が親しめる清流と川辺の空間の創出に取り組み、川に対する市民の意識をより身近なものとしていく必要があります。

【事業内容】

- ①合併処理浄化槽*設置の普及、維持管理の促進
- ②河川におけるヨシ対策の研究
- ③緑のトラスト*保全地、景観緑地指定による河岸緑地の保全
- ④藤田堀の改善対策の研究
- ⑤ホタルの生息できる環境づくりの促進



飯能河原周辺河岸緑地

2 市民プロジェクト

環境問題は、大部分が市民一人ひとりの日常生活や事業活動に起因するものです。その解決を図るためには、市民一人ひとりが環境に関心を持ち、自分に何ができるかを考え、家庭や職場などの身近な場で環境に配慮した行動を実践していくことが重要です。

このため、多くの市民の参加が見込め、市民が主体となって行う取組を「市民プロジェクト」として取り上げます。

この市民プロジェクトは、はんのう市民環境会議、飯能市環境衛生推進協議会及び飯能市エコツーリズム*活動市民の会で行っている取組で、市の施策に連動するものです。このようなプロジェクトをより多くの市民の皆さんに理解していただき、参加していただければ、環境基本計画実現のための取組も充実したものとなります。多くの市民の皆さんや事業者の参加を期待します。

【市民プロジェクト】

- 1 生ごみ処理箱による生ごみの減量運動を展開します。
- 2 節電・省エネルギーのライフスタイルを広めます。
- 3 再生可能エネルギーの研究プロジェクトを進めます。
- 4 森林・里山の再生を推進します。
- 5 ポイ捨て防止・ペットマナー運動を展開します。
- 6 地域の魅力を再発見するため、エコツアーの充実を図ります。

1 生ごみ処理箱による生ごみの減量運動を展開します。

～生ごみの減量に努めよう～

生ごみは、重量比で可燃ごみの約3分の1を占めます。はんのう市民環境会議では、生ごみ処理箱による生ごみを黒土に戻す取組について研究を進めています。こうしたごみの減量化のための取組が市民に広がることが期待されています。

【取組】

- 生ごみ処理箱を使って、生ごみを黒土に戻す運動を展開します。
- ベランダでも使えるように仕組みを考えます。
- 冬の微生物の活動の弱い時期の対策を研究します。

2 節電・省エネルギーのライフスタイルを広めます。

～ライフスタイルを見直そう～

平成23年3月11日の東日本大震災とそれに続く福島第一原子力発電所の事故の影響による電力不足の懸念から、今までの電気等のエネルギーをふんだんに使った生活スタイルの見直しを求められています。はんのう市民環境会議では、待機電力*の削減やエアコンの適正温度での使用等の節電やゴーヤなどによる緑のカーテンを広める運動をしています。こうした節電・省エネルギーのライフスタイルが広まることが期待されています。

【取組】

- ゴーヤなどによる緑のカーテンを広めます。
- 緑のカーテンコンクールを実施します。
- 待機電力の削減やエアコンの適正温度での使用を推奨することなど、節電・省エネルギーのライフスタイルを提案し、広めます。



生ごみ処理箱



緑のカーテン

3 再生可能エネルギーの研究プロジェクトを進めます。

～再生可能エネルギーを暮らしに取り入れよう～

再生可能エネルギー*は、温室効果ガス*をほとんど出さないクリーンエネルギーとして期待されています。はんのう市民環境会議では、小水力発電*、太陽光発電などの再生可能エネルギーの研究を行っています。こうした再生可能エネルギーを身近なところから取り入れる試みが市民の間に広がることが期待されています。

【取組】

- ・家庭での太陽光発電や木質バイオマス*の利用を促進します。
- ・公共施設などの屋根を利用した市民共同太陽光発電事業制度の利用を研究します。
- ・用水路等を利用した小水力発電の研究を行います。

4 森林・里山の再生を推進します。

～森林・里山に親しみ、再生活動に取り組もう～

森林・里山は、様々な生物の生息・生育の場であるとともに、私たちに多くの恵みをもたらします。はんのう市民環境会議では、天覧山谷津の里づくりプロジェクトにより、谷津田をはじめとした里山の再生に取り組んでいます。森林・里山の再生には、市民の皆さんのこうした活動への参加が必要です。市民の皆さんの里山再生活動への参加が広まることが期待されています。

【取組】

- ・森林の体験活動に参加します。
- ・森林ボランティア活動を通じて森林や林業への関心を深めます。
- ・天覧山谷津の里づくりプロジェクトを推進します。
- ・中居・中山の桜の森の利活用を推進します。
- ・耕作放棄地の市民農園利用などを検討します。



住宅用太陽光発電システム



天覧山谷津の里づくりプロジェクト

5 ポイ捨て防止・ペットマナー運動を展開します。

～きれいな街をつくろう～

まちをきれいにするためには、環境美化の取組が市民一人ひとりに広がる必要があります。飯能市環境衛生推進協議会では、ごみのポイ捨てや歩きたばこの防止のためにマナーアップキャンペーンを行い、また、犬の飼い主へのマナー啓発活動を行っています。市民の皆さんのこうした運動への参加が期待されています。

【取組】

- ペットマナー運動を展開します。
- 飯能河原のごみの有料引取りを継続します。
- ごみのポイ捨てや歩きたばこの防止運動を展開します。
- ごみ拾い運動を展開します。
- ごみ集積所への適正搬出・清潔化運動を展開します。

6 地域の魅力を再発見するため、エコツアーの充実を図ります。

～エコツーリズムのまち飯能～

エコツーリズム*は、エコツアーを通じて、里地里山の自然環境、そこで営まれてきた暮らしの魅力を再発見し、地域への愛着や誇りを育み、環境に対する意識を高めることを目的としています。飯能市エコツーリズム活動市民の会では、市民の方々がエコツアーのガイドとして活躍をしているところですが、さらに多くの市民の方にエコツアーの実施者、ガイドとなっていただき、また、一人でも多くの方がエコツアーに参加していただくことが期待されています。

【取組】

- エコツアーを通じて、里地里山の自然環境、そこで営まれてきた暮らしの魅力を再発見し、地域への愛着や誇りを育み、環境に対する意識の醸成を図ります。



マナーアップキャンペーン



エコツアー（里山お散歩ツアー）